

気象ビジネス推進コンソーシアム (WXBC)

第8回運営委員会

○日 時

平成30年3月15日 (木) 13:00～15:00

○場 所

気象庁5階 総務部会議室

○次第

<審議事項>

- (1) 人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更
- (2) WXBC 細則の改正
- (3) 平成30年度の運営委員会の開催頻度
- (4) WXBCにおける共催・協賛・後援等に関する規程
- (5) WXBC ホームページの掲示板運用規程

<報告事項>

- (1) 人材育成WG報告
- (2) 広報関係
- (3) 「発掘！新たなビジネスアイデア！」@福岡管区气象台 報告
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

○配布資料

資料1：議事資料

別紙1：WXBC 細則改正案

別紙2：気象ビジネス推進コンソーシアムにおける共催・協賛・後援等に関する規程（案）

別紙3：気象ビジネス推進コンソーシアム規約

別紙4：気象ビジネス推進コンソーシアムホームページの掲示板運用規程

別紙5：気象ビジネス推進コンソーシアムツイッターに関する運用マニュアル

別紙6：「交通運輸技術開発推進制度 平成30年度新規研究課題の公募」

(H30.3.2 国土交通省報道発表資料)

別紙7：WXBC 第7回運営委員会議事概要

参考：第2回気象ビジネスフォーラム参加者アンケート結果

日時：平成30年3月15日(木) 13:00~15:00
場所：気象庁5階 総務部会議室

議題

<審議事項>

- (1) 人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更
- (2) WXBC細則の改正
- (3) 平成30年度の運営委員会の開催頻度
- (4) WXBCにおける共催・協賛・後援等に関する規程
- (5) WXBCホームページの掲示板運用規程

<報告事項>

- (1) 人材育成WG開催報告
- (2) 広報関係
- (3) 「発掘！新たなビジネスアイデア！」@福岡管区気象台 報告
- (4) 今後のスケジュールについて
- (5) その他

審議事項 (1) 人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更

●人材育成WG

(敬称略)

座長：先端IT活用推進コンソーシアム (AITC) 田原 春美

副座長：(一財)日本気象予報士会 岩田 修

所属	備考	所属	備考
1 先端IT活用推進コンソーシアム (AITC)	運営委員	16 株式会社北海道総合技術研究所	
2 JapanTaxi株式会社		17 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	
3 株式会社石川コンピュータ・センター		18 ホッピービバレッジ株式会社	
4 岐阜大学大学院		19 株式会社マーチャンダイジング・オン	
5 一般社団法人全国清涼飲料連合会		20 株式会社レッドマルスAD ベンチャー	
6 徳島大学		以下は、加入希望 (8者)	
7 日通学園流通経済大学		株式会社アイシーエス	新規
8 一般財団法人日本気象協会	運営委員	光陽無線株式会社	新規
9 一般社団法人日本気象予報士会		ジオテック技術士事務所	新規
10 公益社団法人日本バス協会		株式会社コム・アンド・コム	新規
11 (国研) 農業・食品産業技術総合研究機構	運営委員	広島工業大学	新規
12 ハイパーアグリ株式会社		株式会社マルツ電波	新規
13 株式会社ハレックス	運営委員	ユニー株式会社	新規
14 株式会社日立製作所	運営委員	株式会社ルグラン	新規
15 富士通株式会社	運営委員		

審議事項（１）人材育成WG、新規気象ビジネス創出WGメンバーの変更

●新規気象ビジネス創出WG

(敬称略)

座長：三菱総合研究所 村上 文洋

副座長：富士通（株）菅波 潤

所属	備考	所属	備考	所属	備考
1 株式会社IHI		25 株式会社東芝	運営委員	49 明星電気株式会社	
2 JapanTaxi株式会社		26 徳島大学		50 地方独立行政法人山口県産業技術センター	
3 NTT空間情報株式会社		27 日通学園流通経済大学		51 株式会社ライブビジネスウェザー	
4 株式会社NTTデータ経営研究所		28 日本IBM株式会社		52 リアルワールドゲームス株式会社	
5 M-SAKUネットワークス		29 日本気象株式会社		53 株式会社レッドマルスADベンチャー	
6 株式会社 Realmedia Lab.		30 日本電信電話株式会社		54 株式会社ローリス	
7 TISソリューションリンク株式会社		31 株式会社日本ネットワークサービス		以下は、加入希望（11者）	
8 株式会社TRUEDATA		32 一般社団法人日本能率協会		NextDrive株式会社	新規
9 石川コンピュータ・センター		33 公益社団法人日本バス協会		株式会社アイシーエス	新規
10 株式会社ウェザーニューズ	運営委員	34 ハイパーアグリ株式会社		光陽無線株式会社	新規
11 株式会社エムティーアイ		35 株式会社パソコ	運営委員	株式会社コム・アンド・コム	新規
12 応用地質株式会社		36 株式会社ハレックス	運営委員	ジオテック技術士事務所	新規
13 大塚製薬株式会社		37 株式会社日立製作所	運営委員	シムマラジオ合同会社	新規
14 沖電気工業株式会社		38 富士通株式会社	運営委員	一般財団法人水源環境センター	新規
15 株式会社環境エネルギー研究所		39 株式会社フランクリンジャパン		広島工業大学	新規
16 経営パワー株式会社		40 プランテオ株式会社		株式会社マルツ電波	新規
17 株式会社構造計画研究所		41 株式会社北海道総合技術研究所		ユニー株式会社	新規
18 国際航業株式会社		42 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社		株式会社ルグラン	新規
19 佐川急便株式会社		43 株式会社ポック			
20 シャープ株式会社		44 ホッピービバレッジ株式会社			
21 新日鉄住金ソリューションズ株式会社		45 株式会社マーチャンダイジング・オン			
22 株式会社スポーツウェザー		46 三井住友海上火災保険株式会社	運営委員		
23 一般社団法人全国清涼飲料連合会		47 株式会社 三菱総合研究所	運営委員		
24 ソフトバンク株式会社		48 株式会社ミライト・テクノロジーズ			

3

審議事項（２）WXBC細則の改正

●細則改正案は別紙 1 のとおり。

<改正事項>

- ・WGへの参加申請があった場合、WG座長が承認できる規定を追加

<改正理由>

- ・現行の細則では、WGへの参加申請があった場合、次の運営委員会において承認を得る必要がある。
- ・このため、WG参加承認までに時間がかかる場合があることから、WG座長が承認できるようにすることにより、WG参加申請者が速やかにWG活動に参画可能とするものである。

4

審議事項（3）平成30年度の運営委員会の開催頻度

- 平成29年度はWXBC立ち上げの年であったことから、当初の4回は月1回のペース、その後は2ヶ月に1回のペースで開催した。
- 平成30年度は基本的に3ヶ月に1回の開催とし、必要に応じて追加開催することとしたい。

【開催スケジュール感】

- ・第1回：平成30年5～6月
- ・第2回：平成30年8月～9月
- ・第3回：平成30年12月～平成31年1月
- ・第4回：平成31年2月～3月

＜参考＞平成29年度の運営委員会開催状況

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・第1回：平成29年4月12日 | ・第5回：平成29年9月11日 |
| ・第2回：平成29年5月17日 | ・第6回：平成29年11月9日 |
| ・第3回：平成29年6月14日 | ・第7回：平成30年1月11日 |
| ・第4回：平成29年7月25日 | ・第8回：平成30年3月15日 |

5

審議事項（4）WXBCにおける共催・協賛・後援等に関する規程

- WXBCにおける共催・協賛・後援等に関する規程案は別紙2のとおり。

WXBCの更なる活動拡大に向けて、後援等に関する規程を作成し、運営委員会における後援等の承認の判断基準とする。

＜ご参考：今年度の後援等の状況＞

共催の依頼を受けた件数：3件、後援の依頼を受けた件数：4件

（共催を依頼した件数：2件、協賛を依頼した件数：6件、後援を依頼した件数：23件）

6

- WXBCホームページの掲示板運用規程案は別紙４のとおり。

WXBCホームページにおける会員専用ページ内のコミュニケーションツールとして用意する掲示板の運用規程を定める。

報告事項（１）人材育成WG報告

1. 報告事項

- （１）WXBC地方セミナー
- （２）第5回WXBCセミナー
- （３）2018年度WG活動の検討状況
 - ①活動目標
 - ②次年度のWXBC東京セミナー
 - ③次年度のWXBC地方セミナー
 - ④今後の「気象データ分析チャレンジ！」開催計画
 - ⑤人材育成WG内の勉強会について

参考資料：気象データ分析チャレンジ！1日コース案

（１）WXBCセミナー in 仙台（２／９開催）

【仙台管区気象台からの報告】

■セミナー参加者について

- ・一般参加者数： 54名
（内訳：事前申込 70名、欠席19名、当日受付3名）
- ・講師 2名（1名は人材育成WG：平松様）
- ・気象台関係者 10名（スタッフ7名、聴講者3名）
- ・合計 66名

■報道、取材

新聞社（1社）： 河北新報社（2月17日付の朝刊で報道されました）
雑誌社（1社）： 仙台経済界

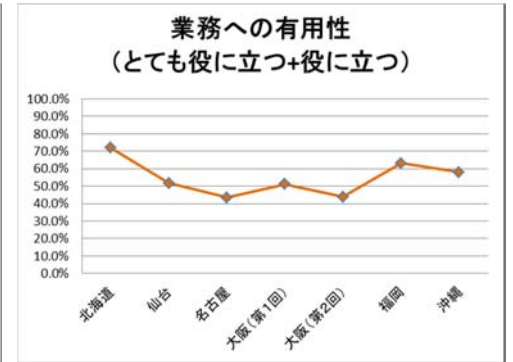
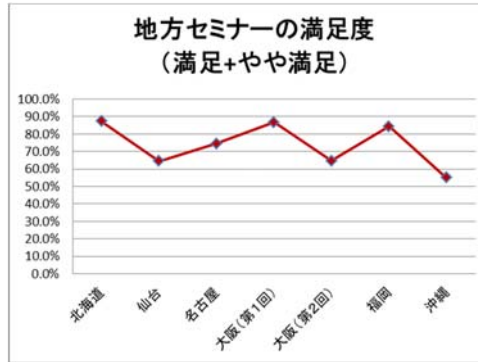
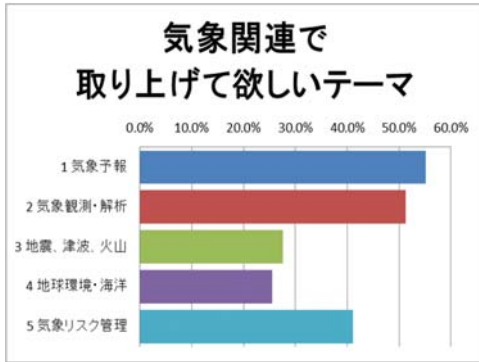
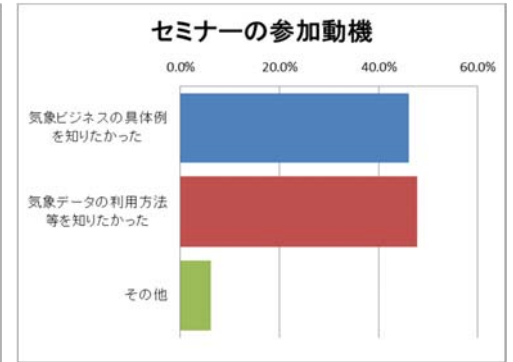
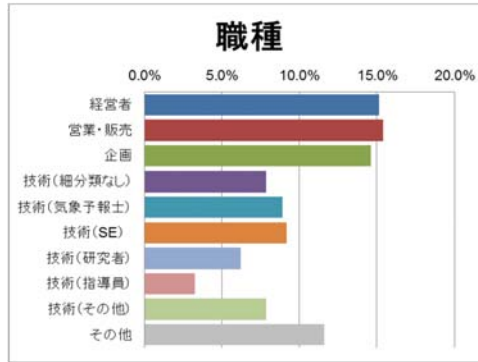
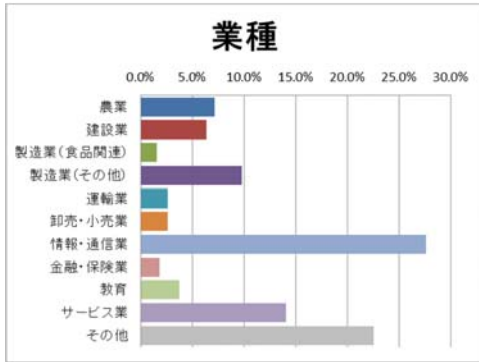
■意見交換会について

- ・意見交換会は、講師2名が演台に並んで座っていただき、参加者からの意見や質問に対する回答等をもとにディスカッションする形としました。
- ・質問表は、参加者に受付と同時に配布し、講演の合間等にスタッフが回収し、不足する場合には追加配布しました。
- ・なるべく多くの方に参加いただけるよう、閉会挨拶を意見交換会後に設定する等工夫した結果、35名の方が参加され、活発な意見交換が行われました。

（１）WXBCセミナー in 仙台（２／９開催）②



開催：6都市7回 参加者：482名



【参加者からのご意見やご感想】

- 参考になりました。今後の事業戦略に役立てたいと思います。
- 気象データが沖縄の観光産業や関連産業の発展につながる可能性について学習できた。
- 気象データという公平で客観的なビッグデータをもっと活用すべきだと感じた。

- 企画・アプリの制作などのワークショップを開催してほしい。
- 意外性のある分野の話も聞いてみたい。
- 農業に対してもっと高度な内容も聞いてみたい。
- 今後も継続して定期的に今回のようなセミナーを実施してほしい。

報告事項（1）人材育成WG報告（4/6）

(2) 第5回WXBCセミナー 企画書（事務局案）

1. 概要・目標

地震の観測・予測データなどを活用したビジネスの現状と可能性に関して紹介を行うとともに、地震・津波・火山に関する観測・予測データに関して説明を行う。また、気象庁XMLのAPIを利用した情報取得方法について紹介を行う。更に話題提供として、3月から提供を開始する「世界の天候データツール（ClimatView 日別値）」について紹介する。なお、第4回に引き続き、入門的な説明及び気象庁内の見学会も実施する。

これまでのセミナーと同様に参加者が気象ビジネスの事例を実感し、それに必要な気象データの内容及び入手方法についての基礎的な知識を身に付けることを目標とする。※

※非会員への勧誘や気象ビジネスの普及にも資する。

2. 日時

平成30年3月16日（金）11時00分～12時00分（第1部 気象データの全体像+気象データの入手方法※）

※気象データに馴染みのない方等を対象に、気象データの全体像及びカテゴリについて解説するとともに気象データの入手方法について説明を行う。

13時00分～15時35分（第2部 セミナー本体）

15時40分～16時10分（現業室見学。並行して参加者からの個別質問受付）

3. 場所

- ・講堂（気象庁2階。第1部（「気象データの全体像+気象データの入手方法」）及び第2部（セミナー本体））
- ・予報・地震火山現業室・気象科学館（現業室見学等）

4. 対象者

- ・WXBC会員100名・非会員20名 計120名
- ・ただし、120名の定員を大きく上回る場合は、追加開催も検討する。
- ・なお、1回目はWXBC会員を優先する。
- ・「気象データの全体像+気象データの入手方法」及びセミナー本体は事前申込者（先着順）とする。
- ・予報・地震火山現業室見学は事前申込者40名（会員のみ）とする。参加者多数の場合は、事前申込者先着順とし、かつ1社1名とする。
- ・気象科学館はどなたでも見学可。

報告事項（1）人材育成WG報告（5/6）

5. 内容 ※ 第2部（3）を除き、5分程度質疑を行う時間を設ける。

第1部 気象データの全体像+気象データの入手方法について（第4回セミナー第1部での内容と同一）

気象データに馴染みのない方等を対象に、気象データにはどのようなものがあるのかを理解いただくため、その全体像及びカテゴリー（分野（気象/地震/火山/海洋）、観測/予測、メッシュ/ポイント等）について解説する。本説明を受けることにより、セミナー本体の理解を促すことを目的とする。また、気象データ提供に関する気象業務法の規定や、気象業務支援センターからの気象データ入手方法（ルート、経費）等について、具体例を挙げつつ説明する。また、民間気象事業者からもこれらのデータの入手が可能であることも併せて説明する。

第2部 セミナー本体

（1）地震、津波、火山に関する情報について

地震や津波、火山の観測・予測データに関する概要や利用（データの概要や特徴、利用上の注意点等）について説明する。

（2）気象ビジネスの具体例について紹介 ～緊急地震速報の活用事例（仮）について～

気象ビジネスの具体例を通じて気象データの利活用場面を実感していただけるよう、緊急地震速報の企業向けの活用事例の紹介を富士通エフ・アイ・ピー（株）様にさせていただく。

（3）気象庁XML用APIを利用した気象情報取得法のご紹介

気象庁がXMLフォーマットで発表している気象情報について、APIを利用して取得する方法を先端IT活用推進コンソーシアム（AITC）様にご紹介いただく。

（4）話題提供

2018年3月15日から提供開始の「世界の天候データツール（ClimatView 日別値）」について紹介する。

（5）気象庁見学（午後：会員のみ）

気象データをより身近に感じていただくとともに、気象データの作成される過程について理解いただけるよう、気象庁の予報・地震火山現業室の見学を行う。

1班20名の2班に分け、順次予報・地震火山現業室を見学する。1箇所あたりの説明時間は10分とし、「各種気象データがどのように作られているか、どのようなルートで発表されているか」等について説明を行う。質疑は3分程度、移動は2分程度を想定。

※気象科学館には、セミナー本体後の見学時間には説明員を数名配置する。

6. その他

（1）会員へのご案内では、第1回の「気象データの全体像」及び第2回の「気象データの入手方法」の資料の持参をお勧めする。

（2）セミナーの開催について、気象庁HPへの掲載及び記者クラブへのお知らせを行い、WXBCの活動を広く周知する。

（3）気象庁の利活用事例（パンフレット）を受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

（4）気象業務支援センター及びWXBC会員のパンフレットを募集し、受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

（5）見学を行わない観測部現業室については、資料を受付に置き、希望者に自由にお取りいただく。

（6）気象科学館の開館時間（10時～16時）を16時30分まで延長し、セミナー後の見学も可能にする。

13

報告事項（1）人材育成WG報告（6/6）

（3）2018年度 WG活動__検討状況

① 活動目標

1年目：気象データの理解と認知度の向上に注力！（理解しよう！）

2年目：気象データ利用の啓発に注力！（触ってみよう！ 試してみよう！）

3年目：気象データ利用の向上に注力！（使ってみよう！）

② 次年度のWXBC東京セミナー

・テーマ： 利用啓発に力を入れたい気象データ（→気象庁に検討依頼）

・課題：セミナーの中で、どう「触ってみよう！」を実施できるか？

・開催頻度&スケジュール： 四半期に一度開催、スケジュールは今後検討

・挑戦：シラバス（学習計画）を作成&公開+開催案内で対象者を明示

③ 次年度のWXBC地方セミナー

・テーマ： 昨年度同様、地域特性に合わせた企画（→管区气象台への企画検討を依頼）

・開催スケジュール：管区气象台の都合に合わせ調整

・WGからの提案：2日連続開催（セミナー+ 気象データ分析チャレンジ！ 1日コース※）

※東京で先行開催する1日コースの資料とVideoを提供

・課題：分析チャレンジ！のファシリテーターを各管区气象台で担当できるか（各管区に打診）
意見交換/交流会のやり方

④ 今後の「気象データ分析チャレンジ！」開催計画

・1日コース： 3日コースの改編版（添付：参考資料）で開催@東京、時期は5月以降

⑤ 人材育成WG内の勉強会について

・業務紹介&意見交換会： 4月から月例WG内で開始

・IoT、AI関連の活動（サブグループ）：参加メンバーを募集し、詳細計画の検討を開始

14

参考資料：気象データ分析チャレンジ！1日コース案

【1日コースの概要】

1. 3日間コース→1日コース 改編の考慮点

- ・時間帯：9：30開始、17：30終了。昼食を1時間とり実質7時間で想定
- ・構成：座学+個人ワーク+グループワークは変えない
- ・掛け合わせのオープンデータ：東京電力のデータのみとする
⇒グループワークの時間を確保し時間短縮を図るには、扱う掛け合わせるデータの種類を減らすしかない
⇒POSデータを扱わないことで、配布に伴う煩雑さや使用後の消去など管理作業を軽減できる

2. 1日コース粗案（7時間コース）

- ・オリエンテーション（10分）
- ・気象データの紹介（50分）
- ・掛け合わせデータ（東電データ）のご紹介（20分）
- ・データ分析の基礎・演習I（80分）⇒多少短縮
- ・自主課題：他の電力データを使ってみよう（10分） <ここまで170分>
-----昼食タイム-----

- ・気象x電気で判ったことのおさらい&回帰分析の概要説明（20分）
- ・グループ分け（気象x電力）（10分）
- ・グループワーク（150分）⇒多少短縮
- ・感想発表（45分）
- ・まとめ（25分） <昼食後、250分>

3. 実施計画

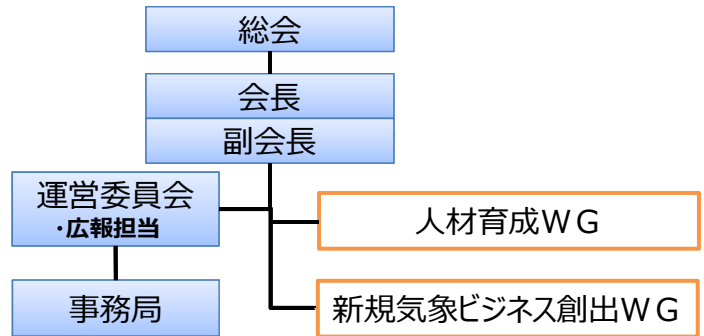
- ・東京で1度実施、Video撮影（5月以降、できるだけ早い時期を希望）
- ・ファシリテーター：吉野先生
- ・資料とVideoをもって管区气象台に開催準備を依頼

今後のテーマ:面的データ（GRIB形式）、3次元データを含むメッシュ気象データ、確率予報を含む（未来のデータ）15

<参考> 平成30年度のWXBCの運営体制・活動内容（2/13WXBC総会資料より）

1. 運営体制

- 今年度と同様、総会、運営委員会、人材育成WG、新規気象ビジネス創出WG、広報担当の体制を継続する。
- 会長、副会長の任期はWXBC規約により2年、運営委員の任期はWXBC細則により2年となっていることから、現会長、副会長、運営委員には2年目として引き続きご担当いただく。
- 現広報担当にも引き続きご担当いただく。



2. 活動内容

気象ビジネスフォーラムの開催

気象ビジネスフォーラムをWXBCの総会と併せて開催し、WXBCの活動の成果を効果的にアピール

関係機関、団体との連携

今年度VLED、IoT推進ラボと連携したように、関係機関、団体と連携してWXBCの活動を効果的に実施

人材育成WGの取り組み

- ① WXBCセミナーの開催（東京及び地方都市）
- ② 勉強会（テクノロジー研修）の開催
（継続）気象データ分析チャレンジ！
（新規）IoTチャレンジ！ AIチャレンジ！
- ③ マッチングイベントの開催 <新規気象ビジネス創出WGと連携>
- ④ 気象データ利活用人材の更なる育成方策の検討

連携

新規気象ビジネス創出WGの取り組み

- ① 新規気象ビジネス創出に向けた検討
・WGメンバー等の有志による自発的な実証実験
（気象庁は気象データに係る助言等の必要な支援）
- ② アイデアソン・ハッカソンの開催
- ③ マッチングイベントの開催 <人材育成WGと連携>
- ④ 気象データの利活用事例集の拡充

気象庁の取り組み

気象データに対する産業界のニーズを把握するため、気象庁から過去の気象観測・予測データや新たなデータを試行提供し、ビジネスにおいて利用しやすいデータについての要望を人材育成WG、新規気象ビジネス創出WG、WXBC会員から気象庁へフィードバックいただく。

データ要望の
フィードバック

WXBC会員から
のフィードバック

データ要望の
フィードバック

報告事項（2）広報関係（1/3）

●HPについて：

- 現在のHP応答速度を向上させるため、サーバの入れ替え作業を3月中に実施
- 会員専用ページにセミナー動画（東京セミナー分）を3月中に追加。
※地方で開催したセミナーについても準備が出来次第順次公開。
- 会員専用ページ内の掲示板について、掲示板運用規程施行と同時に運用開始
- ホームページの機能拡張（4月中に完成予定）
 - ・意識調査等を行うための簡易アンケート機能



※図はイメージです。

- ・WXBCの取り組み等についてフィードバックを頂けるよう、選択式回答、自由記述ができるアンケート機能

17

報告事項（2）広報関係（2/3）

●Twitterについて：

- セミナーの募集、イベントの報告等をつぶやいています。
- フォロワーは、気象予報士を中心に188（3/14現在）と徐々に増えてきています。
- ツイッターに関する運用マニュアル（別紙5）を広報担当様と相談の上作成し、それにより今後の運用を行っていきます。

●メーリングリストについて：

11月の第6回運営委員会において、メーリングリストの新しいメールアドレスのご案内を申し上げておりましたが、移行がまだ完了しておりません（※）。年度末・年度初めの繁忙期の混乱回避の観点から、4月以降に再度ご案内して、対応させていただきます。

※11月からメーリングリストの新しいメールアドレスへの移行作業を進めておりましたが、担当者様のご異動等があった後に、登録されているメールアドレスの変更の連絡を事務局が受けておらず、ニュースレターなどが届いていない企業様がいらっしゃる事が判明したことから、その対処に時間を要したためです（現在これは解消されています）。

18

●ニュースレター発行

- ・1月12日 ニュースレターVol. 22
 1. Twitterの開始について
 2. 第2回WXBC総会開催について
 3. 第2回気象ビジネスフォーラム開催のお知らせ
 4. 紫外線解析値の毎時間提供開始について
- ・1月26日 ニュースレターVol. 23
 1. WXBC会員向けホームページについて
 2. 第2回気象ビジネスフォーラム開催のお知らせ（追加情報）
 3. アイデアコンテストがニュースに！
- ・1月31日 ニュースレターVol. 24
 1. 気象庁過去データ試用提供の開始について
- ・2月5日 ニュースレターVol. 25
 1. 第2回気象ビジネスフォーラムの参加者募集について
 2. 第2回気象ビジネスフォーラムでのパネリストへのご質問募集について
- ・2月22日 ニュースレターVol. 26
 1. 第5回WXBCセミナーの企画が固まりました。
 2. 第7回運営委員会が1月11日（木）に開催されました。
 3. 第2回総会が2月13日（火）に開催されました。
 4. 2月26日に気象データの利用事例がTV放送されます！
- ・3月5日 ニュースレターVol. 27
 1. 3/16（金）第5回WXBCセミナーについて（追加情報）
 2. 交通運輸技術開発推進制度 平成30年度新規研究課題の公募
 3. 3/12（月）「農業データ連携基盤フォーラム」を開催

報告事項（3）「発掘！新たなビジネスアイデア！」@福岡管区気象台 報告

1. 概要・目標

本企画は、大学生が気象ビジネスについてIoT・AI技術と関連づけながらアイデアソン形式でアイデアを創出するものである。本企画では幅広い層に気象データや気象ビジネス推進コンソーシアム等への理解を深めてもらうことを目的とする。長期的には、新たな気象ビジネスのアイデアの発掘、参加者の気象ビジネスの素養の向上、及び将来的な気象ビジネス人材の育成へ繋げる。

2. 日時

平成30年3月3日（土） 13:30～17:00（開場 13:00）

3. 場所

福岡管区気象台2F大会議室



発表資料作成



発表

4. 参加者

大学生・専門学校生 10名
 ※各チームに気象台職員を1名配置
 （2チームを編成）

5. 開催結果（アイデアは次ページ）

- ・既に類似したサービスが存在するが、参加者の生活に密着したお役立ちアプリのアイデアが出された。
- ・ハッカソンを行う等により短時間で実現できるアイデアであった。
- ・時間が短い、アイデア出しの時間がもっと欲しかった等の要望があったものの、同様のイベントがあれば参加したいといった評価をいただく等、概ね良好な結果であった（アンケートは集計中）

気象ビジネス企画シート タイトル: ぼくらの予報士

チーム名: 予報士予備軍 メンバー: 内坂、福田、赤穂、江川、名本

ターゲット (誰に向けて)

個人

ねらい・目的 (何のために)

QOLの向上

製品・サービス

- ・ アプリ
- ・ 日常のあらゆる場面で自分に刺激を与える

・どんなシーンで利用する?
 ・どんな悩みを解消する?
 ・どんな驚き・感動がある?
 ・何を提供するか?
 ・具体的な内容は?

使う気象データ

当日、直近の気象情報

実現方法

- ・ アプリで 気象情報、合わせた行動を提案する。

・お出かけの予定がある
 ・ 気象を調べると。
 ・ 自分(自分)の予定を定めて。
 ・ 仰(聞き)のヒントを。
 単体ではよく他のアプリと足らぬ。

宣伝方法

既存のアプリに宣伝

・ 外(外)先でイベントを企画してやる。
 → 地元の活動。

人と企業と団体とのつながり

既存のアプリと連携

・ 個人(個人)のサービスと連携。
 → SNSに連携。

料金設定

無料

・ 有料(有料)が...
 → 有料(有料)を見る。

気象ビジネス企画シート タイトル: 気象ゲッター

チーム名: 3パーズ メンバー: 岸田、三浦、築地原、上杉、小林

ターゲット (誰に向けて)

気象や気候に興味のある人

ねらい・目的 (何のために)

いい写真をおさめてもらいたい。

製品・サービス

- ・ IoTで気象現象の撮影を狙ったカメラ
- ・ 撮影手法のポイントや必要な装備を教える
- ・ 季節の草花や層状雲の発展的内容を教える。簡単な説明がほしい
- ・ SNSと連携して自動投稿ができる
- ・ 中継草花等、社外研究に役立ちたい
- ・ 気象に興味のある人に興味を持ってもらう。イベント

・どんなシーンで利用する?
 ・どんな悩みを解消する?
 ・どんな驚き・感動がある?
 ・何を提供するか?
 ・具体的な内容は?

使う気象データ

雨量、気温、湿度 (気象データ)

ex) 10 → 大雨で撮影が必要
 雨量 → 20mm以上撮影が必要
 雨量 → 20mm以上撮影

実現方法

- ・ アプリで SNS (Instagram, Twitter) と連携
- ・ 気象ゲッター 1台は気象を測るときに通知
- ・ 撮影場所のデータを収集 → 近所撮影ポイント (マップ)
- ・ 気象現象を AIで判定 (画像認識) → 自動投稿

・ どうやって実現するか? 気象データを活用してみよう! IoT-AI技術を利用してみよう!

宣伝方法

SNSの活用

人と企業と団体とのつながり

気象台との連携

料金設定

「いいね」の集まりに応じて価格設定

気象台からの収入

その他の設定

写真コンテント コスト削減 4つのポイント

報告事項（４）今後のスケジュールについて

※黒字は確定スケジュール
赤字は要調整

- 平成30年3月16日（金） 第5回WXBCセミナー
- 平成30年4月20日（金） 第10回人材育成WG（以後毎月第3週金曜日）
- 平成30年5月上旬～中旬 第7回新規気象ビジネス創出WG開催予定
- 平成30年5月～6月 第9回運営委員会

23

報告事項（５）その他

- 気象ビジネス推進コンソーシアム会長印の作成
セミナー等での他団体への後援依頼、他団体からの後援依頼について、
運営委員会（会長）承認後、事務局にて書類に代理押印する。



24

気象ビジネス推進コンソーシアム 細則

平成29年6月14日 第3回運営委員会承認

平成29年9月11日 第5回運営委員会承認

(総則)

第1条 気象ビジネス推進コンソーシアム規約（以下「規約」という。）第20条に基づき、ここに細則を定める。

(会員)

第2条 当分の間、規約第4条第2項に規定の法人会員、有識者会員、特別会員のどの種別にも当てはまらない又はこれらの構成員である個人から気象ビジネス推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）への入会申し込みがあった場合、その個人が次の条件を了承することを確認した上、個人会員として入会を認めることとする。

- 一 個人会員は総会に出席することができる。ただし、総会の議決権は、法人会員、有識者会員及び特別会員のみ保有するものとする。
- 二 役員、運営委員に就任できるのは、法人会員、有識者会員及び特別会員のみとする。
- 三 ワーキング・グループに参加できるのは、法人会員、有識者会員及び特別会員のみとする。
- 四 個人会員は、法人会員、有識者会員及び特別会員の全員へ共有するものと同じ情報を受けることができるものとする。
- 五 個人会員は、コンソーシアム主催の催事に参加することができる。ただし、発表や講演を行う場合、個人会員の所属企業名ではなく、個人名及び有する資格等を用いて行うものとする。

(会員名簿の公表)

第3条 コンソーシアム会員の名簿については、公表を認めた法人会員、有識者会員、特別会員の情報のみ掲載し、運営委員会での承認を得て公表するものとする。

(入退会)

第4条 入会申込書、退会届の記載内容を別添のとおり定める。

第5条 法人会員が解散又は破産したときには、退会したものとみなす。

<改正案>

第6条 法人会員以外の会員については、メールで連絡が取れなくなった場合、退会したものとみなす。

(総会)

第7条 総会の議事録は事務局にて作成し、出席した運営委員の了承を得て公開するものとする。

(運営委員会)

第8条 運営委員の任期は原則として2年とする。ただし、再任することができる。

- 2 運営委員が欠けた場合、運営委員会は当該運営委員の所属する法人から補欠の運営委員を臨時に選任することができる。
- 3 前項の規定による運営委員の選任は、選任後最初の総会で事後の承認を得なければならない。
- 4 第2項の選任による運営委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第9条 運営委員会開催の発議は、運営委員が会長に対して行うことができる。

第10条 規約第13条第6項に基づき、運営委員会を招集する運営委員あるいは運営委員長を会長が指名する必要がある場合は、前条の運営委員会開催の発議が行われる都度指名するものとする。

- 2 同項に基づき、電子メール等の電子的手段により運営委員会を開催する場合は、その議事は運営委員の過半数をもって決するものとし、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

第11条 運営委員会の議事録は事務局にて作成し、出席した運営委員の了承を得て公開するものとする。

(専門ワーキング・グループ)

第12条 ワーキング・グループの構成員は、コンソーシアム会員が申請し、運営委員会の承認を得なければならない。ただし、本条第3項の規定によりワーキング・グループの座長が選出されている場合は、座長が承認できるものとする。

- 2 ワーキング・グループの構成員には、運営委員が含まれるよう努めるものとする。

<改正案>

- 3 ワーキング・グループに座長、副座長を置き、ワーキング・グループ構成員の互選により選出するものとする。
- 4 座長は、ワーキング・グループを主宰する。
- 5 副座長は、座長を補佐し、座長不在時においてその任務を代行する。
- 6 ワーキング・グループには、必要に応じてサブグループを設置することができる。
- 7 サブグループの設置は、ワーキング・グループが自ら定める方法で決定することができる。サブグループの廃止も同様とする。
- 8 サブグループを設置若しくは廃止した場合は、運営委員会に報告しなければならない。
- 9 ワーキング・グループの活動方針、活動内容については、適時に運営委員会へ報告するものとする。

第13条 ワーキング・グループを廃止する場合は、運営委員会の承認を得なければならない。

(規約の変更)

第14条 本細則は、運営委員会の決議をもって変更することができる。

第15条 コンソーシアムとしての外部イベントへの後援・協賛・協力等については、運営委員会の承認を得なければならない。

附則

この細則は、平成29年6月14日より施行する。

この細則（改正版）は、平成29年9月11日から施行する。

気象ビジネス推進コンソーシアムにおける
共催・協賛・後援等に関する規程（案）

（総則）

第1条 気象ビジネス推進コンソーシアム細則第15条に基づき運営委員会が承認を行う、気象ビジネス推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）における共催、協賛及び後援の取扱いに関して必要な事項を定める。

（定義）

第2条 この規程における用語の定義は、次のとおりとする。

一 共催

第三者が主催する催しについて、主催者と共同でその催しを開催（企画・運営）することをいう。

二 協賛

第三者が開催の主体となる催しについて、コンソーシアムがその趣旨に賛同し、応援・援助をすることをいう。ただし、応援・援助にあたっては、原則的に経費の負担はないものとする。

三 後援

第三者が主催する催しについて、その趣旨に賛同し、応援・援助する場合であって、その催しへの関与が、名義使用の承認、その催しの周知等の場合をいう。

（使用名義）

第3条 使用を許可する名義は、次に掲げるとおりとする。

一 気象ビジネス推進コンソーシアム（WXBC）

（対象事業）

第4条 共催、協賛及び後援（以下「後援等」という。）を行うことができる事業は、コンソーシアム規約第3条の目的に添うものでなければならない。

（承認基準）

第5条 後援等を行う事業は、次の各号に該当する主催者が行うものでなければならない。

- 一 コンソーシアム会員
- 二 国又は地方公共団体
- 三 学術研究機関

- 四 前各号に定めるもののほか、運営委員会がコンソーシアムの趣旨・目的に添うと認めたもの
- 2 後援等を行う事業は、その内容が次の各号に掲げる要件を満たしているものでなければならない。
- 一 コンソーシアム規約第3条の目的に寄与するものであること。
 - 二 主催者の活動の範囲がある程度の広さをもつこと。
 - 三 特定の政治的又は宗教目的を有しないこと。
- 3 前2項に定めるもののほか、後援等を行う事業は、次の各号に掲げる要件を満たしていなければならない。
- 一 主催者の事業遂行能力が十分であること。
 - 二 主催者が社会的に信用しうる者であること。
 - 三 公衆衛生、災害防止等について、安全策が講じられていること。

(申請手続)

第6条 後援等を希望する団体等の代表者等（以下「申請者」という。）は、運営委員会に対し後援等の申請に係る資料を提出しなければならない。

(承認)

第7条 前条の規定に基づく後援等の申請が本規程第5条に定める承認基準を満たしているとき、運営委員会は、当該後援等を承認し、申請者に対し後援等の承認を伝える。

(承認の取消し)

- 第8条 運営委員会は、後援等に当たり、次の各号のいずれかに該当することとなったときは、後援等の承認を取り消すことができる。
- 一 申請の内容に虚偽があったとき。
 - 二 申請の内容と異なる事業を行うとき。
 - 三 コンソーシアムの指示に従わないとき。
- 2 運営委員会は、後援等の承認を取り消すことを決定したときは、速やかに後援等の承認の取消の旨を申請者に伝えなければならない。

(申請内容の変更等)

- 第9条 申請者は、申請内容に変更が生じた場合、又は事業を取りやめた場合、直ちにその旨を運営委員会に届けなければならない。
- 2 後援等の承認を取り消し、又は後援等の事業を取りやめた場合、コンソーシアムが当該事業に要した経費の全部又は一部の返還を主催者に対して求め

ることができる。

(規程の変更)

第10条 本規程は、運営委員会の決議をもって変更することができる。

附則 本規程は平成30年X月XX日より施行する。

気象ビジネス推進コンソーシアム 規約

第1章 総則

(名称)

第1条 本コンソーシアムの名称は「気象ビジネス推進コンソーシアム(以下「コンソーシアム」という。)」とする。

(目的)

第2条 コンソーシアムは、IoT・AI 技術等を駆使し、気象データを高度利用する「気象ビジネス」を推進するため、様々な分野の産学官が連携して気象データのさらなる利活用を促進することで、社会経済活動の生産性を向上させることを目的とする。

(活動)

第3条 コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- 一 先進的気象ビジネスモデルの創出
- 二 気象ビジネスを推進するための環境整備
- 三 気象ビジネスに関する情報の収集・発信、普及・啓発
- 四 その他コンソーシアムの目的を達成するために必要な活動

第2章 会員

(会員)

第4条 コンソーシアムの目的に賛同する企業、団体、有識者、関係府省庁等を会員とする。

2 会員の種別は、次の通りとする。

- 一 法人会員 コンソーシアムの目的に賛同する企業又は団体
- 二 有識者会員 コンソーシアムの目的に賛同し、コンソーシアムの会長がその活動に特別に寄与すると認めた大学・研究機関・学会等に属する個人
- 三 特別会員 関係府省庁、地方公共団体又はコンソーシアムの会長がその活動に特別に寄与すると認めた団体

(入会)

第5条 会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出し、その承認を得て会員になることができる。

(会費)

第6条 コンソーシアムの会費は無料とする。

(退会)

第7条 会員は、会員の意思により任意に退会することができる。ただし、退会に際しては、会長に届け出なければならない。

2 本規約を遵守しないとき又はコンソーシアムの名誉を毀損する行為があったとき若しくは次の各号の一に該当すると認められるときは、当該会員を退会させることができる。

一 法人等(個人、法人又は団体をいう。)が、暴力団(暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律(平成3年法律第77号)第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。)であるとき又は法人等の役員等(個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所(常時契約を締結する事務所をいう。)の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。)が、暴力団員(同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。)であるとき。

二 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき。

三 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき。

四 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき。

第3章 役員

(役員)

第8条 コンソーシアムに次の役員を置く。

- 一 会長1名
- 二 副会長1名

(会長及び副会長)

第9条 会長は、コンソーシアムを代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長不在時において、その会務を代行する。

(任期)

第10条 役員の任期は原則として2年とする。ただし、再任することができる。

(報酬)

第11条 役員はいずれも無報酬とする。

第4章 組織

(総会)

第12条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

2 総会は、会員をもって構成し、年一回開催するほか、会長が必要と認めたときに開催することとし、必要に応じて、書面又は電子メールによる開催とすることができる。

3 総会は、コンソーシアムの活動及び運営の基本的事項について審議し、決定する。

4 総会は、会長、副会長を選任する。

5 総会は、執行機関たる運営委員会の構成員として運営委員を選任する。

6 総会は、会員の過半数の出席（代理出席、委任状を含む。）をもって成立する。

7 総会の議事は、出席者（代理出席、委任状を含む。）の過半数の同意をもって決するものとし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

8 総会は、会長が招集し、議長を務める。

(運営委員会)

第13条 コンソーシアムに執行機関として運営委員会を置く。

2 運営委員会は、総会において選任された運営委員により構成される。

3 運営委員会は、コンソーシアムの活動計画及び活動報告、専門ワーキング・グループの設置等コンソーシアムの運営に関する重要事項を審議し、決定する。

4 運営委員会は、委員の過半数の出席（代理出席、委任状を含む。）をもって成立する。

5 運営委員会の議事は、出席運営委員の過半数をもって決するものとし、可否同数のときは、委員長が決するところによる。

6 運営委員会は、会長又は会長が指名する運営委員が招集し、会長又は会長が指名する運営委員が委員長を務めることとし、必要に応じて、書面又は電

子メールによる開催とすることができる。

- 7 会長又は会長が指名する運営委員は、必要があると認めるときは、運営委員会に特別会員の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(専門ワーキング・グループ)

第14条 運営委員会の決定に基づきコンソーシアムにワーキング・グループを課題毎に設置することができる。

- 2 各ワーキング・グループは、その活動の円滑な推進を図るため、費用の負担、方針の決定その他について自ら規定を定めることができる。

(事務局)

第15条 コンソーシアムの事務局は、気象庁に設置する。

- 2 コンソーシアムの庶務は、事務局又は事務局が指定する者が行う。

(規約の変更)

第16条 本規約は、総会の決議をもって変更することができる。

(解散)

第17条 コンソーシアムは次の事由によって解散する。

- 一 総会の議決
- 二 その他総会で定める事由

第5章 補則

(成果物の取扱い)

第18条 コンソーシアムの活動により得られた成果物は、当該成果物の制作に関与した会員の申請を受けて、運営委員会が認定する。

- 2 成果物は会員以外にも広く公開することを原則とする。

(コンソーシアムの活動における情報の取扱い)

第19条 コンソーシアムの活動における知的財産を含む情報の取扱いについては、会員の利益を守りつつ、コンソーシアムの趣旨に沿った活発な交流が進められるように留意する。

(雑則)

第20条 この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な

事項は、運営委員会において定める。

付則 この規約は、平成29年3月7日より施行する。

気象ビジネス推進コンソーシアムホームページの掲示板運用規程（案）

（趣旨）

第1条 本規程は、気象ビジネス推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）のホームページにおいて、会員専用ページ内のコミュニケーションツールとして用意する掲示板の運用について必要な事項を定める。

（目的）

第2条 「掲示板」は、コンソーシアムの目的達成に資するよう、会員同士のコミュニケーションを行うことでコンソーシアムの活動を活性化させることを目的とする。

（掲載できる情報）

第3条 「掲示板」に掲載できる内容は、次のとおりとする。

- 一 気象データの利活用に関する疑問とそれに対する助言
- 二 気象ビジネス推進に関する情報共有やパートナー募集
- 三 気象データの利活用、気象ビジネスに関する催しの開催の案内。ただし、主催者、開催日時、場所等、その催しに関する主たる情報が確定していること。
- 四 前各号の他、気象ビジネス推進に資する内容

（掲載の制限）

第4条 掲示板に掲載しようとする情報が次のいずれかに当てはまる場合は、掲載してはならない。また、次に当てはまると誤解を受けるおそれがある情報も同様に掲載してはならない。

- 一 公序良俗、法令に違反する内容
- 二 犯罪的行為に結びつく内容
- 三 第三者の著作権を侵害する内容
- 四 第三者の財産・プライバシーを侵害する内容
- 五 第三者に不利益を与える内容
- 六 第三者を誹謗中傷する内容
- 七 政治活動、宗教活動に係わる内容
- 八 企業・団体の構成員を募集すること
- 九 大量の宣伝広告
- 十 その他、掲載が適当でないと運営委員会が認めること

(運用)

第5条 会員及び事務局は、各自の責任に基づき、トピックを自由に作成でき、また、自ら作成したトピックを削除することができるものとする。また、会員及び事務局は、コメントを自由に掲載でき、また、自らのコメントを削除することができる。ただし、本規程第3条及び第4条に定める内容を満たしているものとする。

2 トピック、コメントの内容が本規程に違反していると事務局が判断した場合、事務局はトピック作成者またはコメント掲載者に事前に通知することなく当該トピックまたはコメントを削除することができるものとする。その場合、コンソーシアムはその理由を開示する義務を負わないものとする。

(責任範囲)

第6条 コンソーシアムは、会員による掲示板の利用に関し、他の会員または第三者に与える損害等について、一切責任を負わない。

2 コンソーシアムは、天災等の不可抗力、サービス保守上やむを得ず掲示板の管理が困難になった場合等に、サービスの提供を中止できるものとする。

3 掲示板に掲載される内容については、会員各自の責任に基づくものとし、コンソーシアムはその内容の真否は保証せず、一切の責任を負わないものとする。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、運営委員会が別に定めることができる。

附則 この規程は、平成30年X月XX日から施行する。

気象ビジネス推進コンソーシアム ツイッターに関する運用マニュアル
Ver 1.0

(目的)

- 1 ツイッターが持つ拡散性、即時性による情報の伝播効果を期待し、気象ビジネス推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）の活動等に関する様々な情報を積極的かつ即時に発信することを目的とする。

(アカウント登録)

- 2 事務局はアカウント（ユーザー名・名称・パスワード・メールアドレス）の登録及び総括的な事務にあたる。
 - (1) ユーザー名及びパスワードは、事務局が別に定める。
 - (2) 名称は、「気象ビジネス推進コンソーシアム（WXBC）」とする。
 - (3) 登録するメールアドレスは、事務局アドレスとする。

(パスワードの管理)

- 3 パスワードは事務局が管理し、部外者に開示してはならない。

(情報発信)

- 4 情報発信は事務局が行う。
 - (1) 事務局は、コンソーシアムの活動の推進に必要な情報発信を行うものとする。
 - (2) コンソーシアムのアカウントを通じて情報発信を希望する会員は、事務局にその内容をメール等で送付し、発信を依頼することができる。その場合、当該会員がその発信内容について責任を負うものとする。

(フォローの原則禁止)

- 5 ツイッターアカウントには、原則として、他のツイッターアカウントのフォローを行わない。ただし、事務局が、コンソーシアムの活動において関係が深いと認めるアカウントについては例外とする。

(返信の原則禁止)

- 6 ツイッターアカウントに対する意見や反応等については、返信しない。ただし、広報担当または事務局が必要と判断した場合に限り、必要な返信（全体に向けた情報発信等）を行うことができる。

(リツイート条件)

- 7 他のツイッターアカウントがコンソーシアム関連の情報発信をしている場合において、フォローしているアカウント、会員のアカウント、国等の公的機関等のアカウントからの情報発信については、リツイートすることができる。

(ホームページへの表示)

- 8 アカウントをホームページ上に掲載し、なりすましでないことを証明する。

(なりすましへの対応)

- 9 事務局は、なりすましを発見した場合は、ホームページ等において情報を発信し、なりすましアカウントが存在することへの注意喚起を行うものとする。

(利用違反時等の対応)

- 10 事務局は、法令及びガイドライン、この運用マニュアルに照らし、重大な利用違反や不正利用等が判明した場合は、広報担当に適宜相談の上、必要な措置をとるものとする。

(協議事項)

- 11 このマニュアルに定めていないものについては、事務局と広報担当とが協議して対応するものとする。

平成 30 年 3 月 2 日
総合政策局技術政策課

交通運輸分野の政策課題解決に資する研究課題を募集します

～ 「交通運輸技術開発推進制度 平成 30 年度新規研究課題の公募」 ～

国土交通省は、交通運輸分野の政策課題の解決を目指すため、交通運輸技術開発推進制度の平成 30 年度新規研究課題の公募を 3 月 2 日から開始します。（応募〆切は 4 月 10 日）

交通運輸技術開発推進制度は、民間を含めた研究実施者から広く研究課題を募ることにより、交通運輸分野の政策課題解決に向けた優れた技術開発シーズを発掘することを目的とした競争的資金制度です。毎年度、交通運輸分野の政策課題の解決に資する研究開発テーマについて研究課題の公募を行っており、平成 30 年度は以下のとおり実施します。

1. 研究開発テーマ : IoT、AI、ビッグデータ等を活用した交通運輸分野における新たなサービスの創出や生産性向上に資する技術開発
 2. 公募期間 : 平成 30 年 3 月 2 日（金）から平成 30 年 4 月 10 日（火）17 時
 3. 研究期間及び研究費規模 : 研究期間は 3 年以内。研究費は総額 6,000 万円以内。ただし、初年度の研究費は 2,000 万円以内。
 4. 提案要領及び提案様式 : 国土交通省ホームページ
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/safety/sosei_safety_tk2_000007.html
 または府省共通研究開発管理システム（e-Rad）
<http://www.e-rad.go.jp/> より、ダウンロードできます。
 5. 説明会の開催 : 本制度の概要及び応募方法等について、以下のとおり研究実施者向けの説明会を開催します。参加を希望される方は、平成 30 年 3 月 16 日（金）17 時迄に以下のメールアドレス宛にご連絡下さい。
 （提案書の提出にあたり説明会への参加は義務ではありません）。
- 日時 : 平成 30 年 3 月 19 日（月） 10 時 30 分～11 時 15 分
 場所 : 中央合同庁舎第 3 号館 4 階 総合政策局局議室
 申込 : メール (g_PLB_GAN@mlit.go.jp) に、件名を「交通運輸技術開発推進制度説明会参加申し込み」とし、本文に「所属」、「氏名」、「参加人数」をご記入下さい

※この公募は、平成 30 年度予算の成立を前提として実施するものであるため、予算が成立しなかった場合には契約の締結ができない場合もあり得ることをあらかじめご承知おきください。

【問い合わせ先】

総合政策局技術政策課 芝田、保坂
 電話:03-5253-8111（内線 25615、25634）
 直通:03-5253-8950、FAX :03-5253-1560

第2回気象ビジネスフォーラム参加者アンケート結果

参加者数	201	回答数	121	回答率	60.2%
------	-----	-----	-----	-----	-------

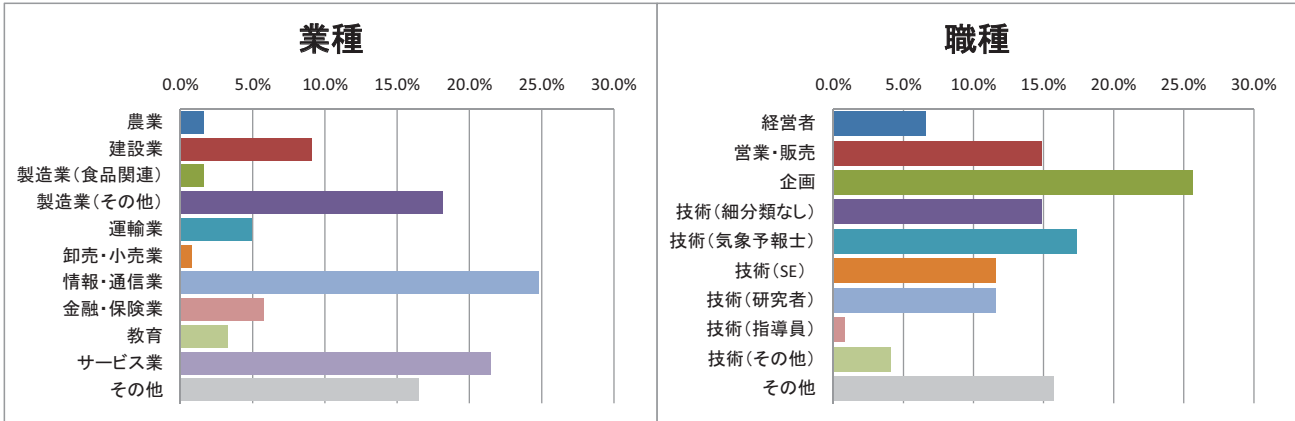
● あなたの業種・職種をお聞かせください（複数回答可）

業種	農業	建設業	製造業（食品関連）	製造業（その他）	運輸業	卸売・小売業	情報・通信業	金融・保険業	教育	サービス業	その他	計
回答数	2	11	2	22	6	1	30	7	4	26	20	131
回答者に対する割合	1.7%	9.1%	1.7%	18.2%	5.0%	0.8%	24.8%	5.8%	3.3%	21.5%	16.5%	108.3%

※「その他」の業種 自営業、行政、SIer、法務、公務員、システム開発

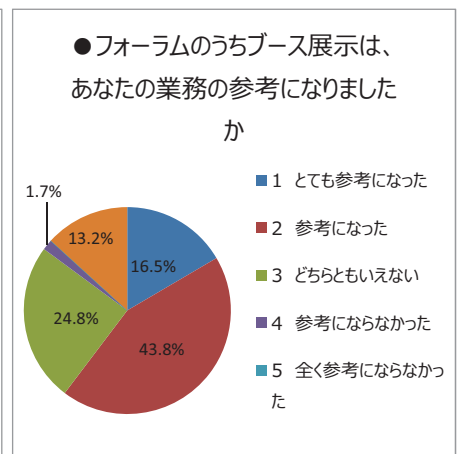
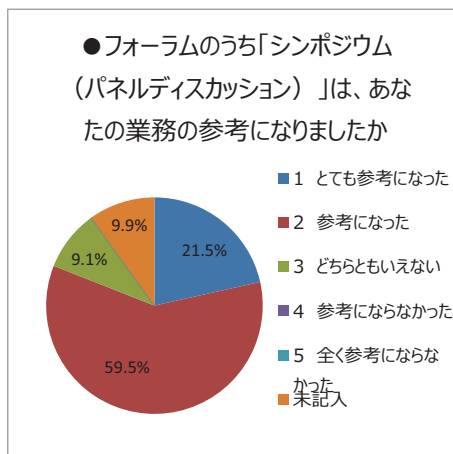
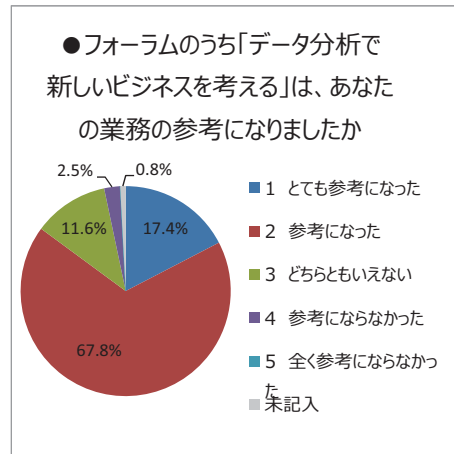
職種	経営者	営業・販売	企画	技術（細分類なし）	技術（気象予報士）	技術（SE）	技術（研究者）	技術（指導員）	技術（その他）	その他	計
回答数	8	18	31	18	21	14	14	1	5	19	149
回答者に対する割合	6.6%	14.9%	25.6%	14.9%	17.4%	11.6%	11.6%	0.8%	4.1%	15.7%	123.1%

※「その他」の職種 人材開発、電力運用、情報配信、弁護士兼海事補佐人兼気象予報士



1 / 5

●フォーラムのうち「データ分析で新しいビジネスを考える」は、あなたの業務の参考になりましたか。			●フォーラムのうち「シンポジウム（パネルディスカッション）」は、あなたの業務の参考になりましたか。			●フォーラムのうちブース展示は、あなたの業務の参考になりましたか。		
選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率
1 とても参考になった	21	17.4%	1 とても参考になった	26	21.5%	1 とても参考になった	20	16.5%
2 参考になった	82	67.8%	2 参考になった	72	59.5%	2 参考になった	53	43.8%
3 どちらともいえない	14	11.6%	3 どちらともいえない	11	9.1%	3 どちらともいえない	30	24.8%
4 参考にならなかった	3	2.5%	4 参考にならなかった	0	0.0%	4 参考にならなかった	2	1.7%
5 全く参考にならなかった	0	0.0%	5 全く参考にならなかった	0	0.0%	5 全く参考にならなかった	0	0.0%
未記入	1	0.8%	未記入	12	9.9%	未記入	16	13.2%
計	121	100.0%	計	121	100.0%	計	121	100.0%



2 / 5

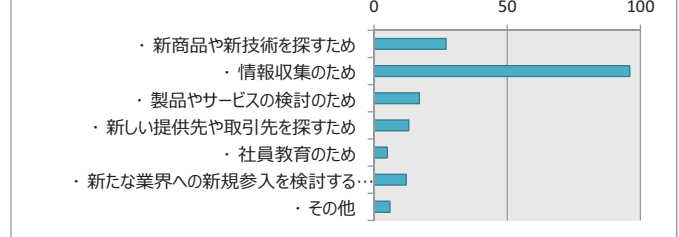
●フォーラムのうち展示会場のマッチングスペースについて、ご意見・ご要望がございましたらご記入ください

1	パネルと離れていて使うための心理的ハードル高かった→使わなかった
2	今回は利用しませんでした
3	見ませんでした
4	なんとなく入りづらい
5	問題なし
6	歩いて回る道路が広いほうがブースの中が見えて興味を持ち易くなる
7	部屋にしなくて、机と椅子を置くだけで良いのではないか？
8	適当で良いと思う
9	名刺があった方が良い
10	利用しなかったが、あるのは良いことだと思う

●来場された目的をおきかせください。(複数回答可)

選択肢	回答数	回答者に
・新商品や新技術を探するため	27	22.3%
・情報収集のため	96	79.3%
・製品やサービスの検討のため	17	14.0%
・新しい提供先や取引先を探するため	13	10.7%
・社員教育のため	5	4.1%
・新たな業界への新規参入を検討するため	12	9.9%
・その他	6	5.0%
計	170	140.5%

●来場された目的をおきかせください



その他 内容

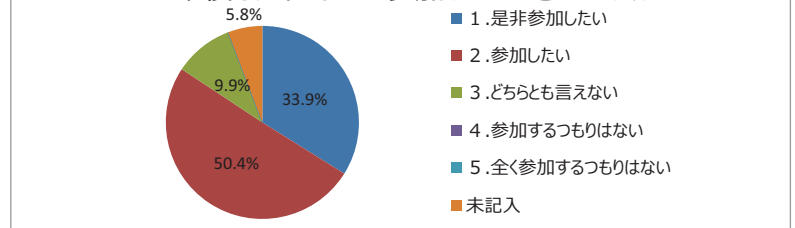
表彰があったため 気象のビジネスへの応用を学ぶため
 会員として内容をもっと知りたかったため
 WXBCビジネス会員のため
 ビジネスとのコラボの可能性について勉強の為
 気象データの活用は保険ビジネスに高度に利用するべきと考えるため。気象データを活用した農業ビジネスとリスクヘッジへのあり方等、他、防災、備金など
 アイデアコンテスト 表彰

●今後もフォーラムに参加したいと思いますか。

選択肢	回答数	回答率
1.是非参加したい	41	33.9%
2.参加したい	61	50.4%
3.どちらとも言えない	12	9.9%
4.参加するつもりはない	0	0.0%
5.全く参加するつもりはない	0	0.0%
未記入	7	5.8%
計	121	100.0%

※評価の理由は別添参照

●今後もフォーラムに参加したいと思いますか



●気象ビジネス推進コンソーシアム (WXBC) やフォーラムについて、ご意見・ご要望がございましたら以下にご記入ください

1	次期気象衛星参入イベント
2	すばらしいです。皆様の努力に感謝です
3	ビジネスマッチングの機会がふえると良いと感じました
4	分析チャレンジのところで実証していましたが該の意味を間違えたままでは無意味 するのであれば言葉もしっかり教えないと無駄
5	海外での活動について
6	大阪でも定期的にイベントを開催して欲しい
7	製造 (メーカー) 向けの気象サービス事例を取り上げていただきたい
8	発表者の原稿をPDFでよいのでメールで送ってほしい
9	気象データの利活用事例を増やして、ビジネスマッチングの機会を増やして欲しい
10	展示しているサービス、製品の効果を宣伝するようなもっと直接的な売り込みを、フォーラムの中で取り上げて良いのではないのでしょうか。1つ2つ。ブースに呼び込むような内容。
11	発足時に比べ格段の充実した活動やフォーラム内容に感銘を受けました
12	気象そのものからビジネス、IoTの割合が増えてきて楽しみです。
13	運営面ですが、フォーラム中に人の移動が激しくて、フォーラムのテーマに集中できない場面がありました。時間中の離席は限定する様なアナウンスとか、休憩の
14	気象データの信頼性とビジネスの可能性について
15	パネルでシンプルイズベストは変わらないことは分りましたが、ニーズ側の集まりではなくニーズ側がこのコンソーシアムに参加したくなるか、参加して良かったと思ってもらえるか そんな内容の議論を取りあげられると面白いのではないかと思います
16	気象データの変換ツールの公開などを考えて一つのテーマとして欲しい
17	理論やアイデアなどの話よりもっと気象の具体例を取り上げて欲しいです
18	もう少し動きが見えるようになってよいです
19	今後の各企業の気象データの利活用に期待しております

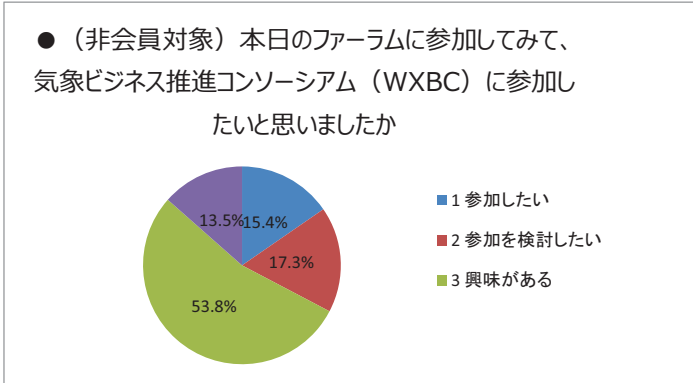
20	2年目、3年目とステップアップしていければと思う。参加者が増え、活発な議論が出来るといいですね。今後A I、I o tの活用例が多く講演されると尚いっそう良くなると感じた。
21	休眠気象予報士が活躍できる場づくり 気象庁資料がP u l l 入手できるサイトの設営 防災気象を扱わない気象予報業務の設定

(この項は非会員の方のみご回答ください)

●本日のフォーラムに参加してみて、気象ビジネス推進コンソーシアム(WXBC)に参加したいと思いましたが。該当する数字に○をつけ

選択肢	回答数	回答率
1 参加したい	8	15.4%
2 参加を検討したい	9	17.3%
3 興味がある	28	53.8%
4 参加する予定はない	7	13.5%
計	52	100.0%

※評価の理由は別添参照



別添

●フォーラムのうち「データ分析で新しいビジネスを考える」は、あなたの業務の参考になりましたか のアンケート内容と理由

1. とても参考になった	2. 参考になった	3. どちらとも言えない	4. 参考にならなかった	5. 全く参考にならなかった	よろしければ、その理由を以下にご記入ください。
0	1	0	0	0	広く薄くのビジネスモデルは非常に興味深かった
1	0	0	0	0	様々な気象情報活用ができることに目からウロコ
0	1	0	0	0	フォーラムで紹介された様な勉強会について知らなかったため
0	1	0	0	0	まだ漠然としているため 考え方の基本が知れて良かった
0	1	0	0	0	気象データと販売製造の未来がありそうである
0	1	0	0	0	過去のデータ分析に基づいて将来の予測をしていくことが大切だとわかった
0	0	1	0	0	シンポジウムからの参加のため
0	0	0	0	0	気象データだけでなく、ビジネスにいけるデータ活用全般についての話でとても参考になった
0	0	1	0	0	データ活用の重要性は分かるが、やり方や仕組みがまだ用意できないから
0	1	0	0	0	仮説と検証の点、様々な仮説を立て相関を検証することで仮説の正しさ、誤りを見ることは参考になるプロセスでした
0	0	1	0	0	個人的にはとても興味深かったが、自分の所属する会社では全く気象との関連を考えてないので、今後そのような可能性があるか考えつつ…
0	1	0	0	0	理系の考え方、データの使い方など、見聞きの広がる良い機会だった
0	1	0	0	0	1人よりグループで多くの視点で分析はよいと思うが、多すぎるデメリットもある場合があり、多ければ良いという訳でないと思うので適度な人数でのグループ業務を目指していただくのが良いのでは とも思いました。
0	0	0	1	0	具体性に欠ける
0	1	0	0	0	数々の気象データの利用方法を知った
1	0	0	0	0	基本的なことから始めることが出来ると改めて感じた。データの活用のケースは沢山あると感じた。
0	1	0	0	0	今後活用される可能性があるため
0	0	0	1	0	研究者としては当然だから。他職種の方には参考になるかと

●フォーラムのうち「シンポジウム（パネルディスカッション）」は、あなたの業務の参考になりましたか のアンケート内容と理由

1. とても参考になった	2. 参考になった	3. どちらとも言えない	4. 参考にならなかった	5. 全く参考にならなかった	よろしければその理由をご記入願います。
0	1	0	0	0	実際に企業の方かどのように気象情報を使って入るか多業種の方の話を聞くことができたから
1	0	0	0	0	様々な気象情報活用ができることに目からウロコ
1	0	0	0	0	事例が具体的に聞けた
0	1	0	0	0	気象データの活用例が聞けて良かった
1	0	0	0	0	難しいのはあるが、薄く広くビジネスモデルの検討、プラットフォームの検討は大事としました。また、シンプルにうたえるのは大切との話は心に留めたいと思います
0	1	0	0	0	国土地理院の地図が以外に使われていなかった。気象だと全国レベルなので白地図が主に使われていた
0	1	0	0	0	☆いろいろなビジネスがあることがわかったので。☆銀行を巻き込む、地方創生がキーワードといった点。
0	1	0	0	0	アイデアとして参考になった
1	0	0	0	0	通信、観光、ゲームなど様々な分野で気象データの利活用をされているのが理解できた
1	0	0	0	0	このように気象データが活用されているかがわかりました。ただ単にデータの掛け合わせではN Gという話題も納得でした。
0	1	0	0	0	人の行動がわかる事に価値があるということについて
0	1	0	0	0	気象データを実際に活用しているビジネスを色々知れたことが良かった
0	1	0	0	0	多くのアイデアがあったから
0	1	0	0	0	実際にビジネスに使われている方の意見を聞け、参考になった
0	1	0	0	0	事例が参考になった
0	0	1	0	0	W X B Cに限らず会社紹介が長い。せっかく人数が多いので1対5ではなく、5人のディスカッションとモデレータではどうか？
1	0	0	0	0	気象データの活用は未来ビジネスに必須と感じました。既に活用されて入るビジネスは参考になりました
0	1	0	0	0	データの利活用の話にはとても興味があります。コンサルパッケージ化。I o tデータの利活用で「薄く広くのビジネスモデルが求められている」というのは考えさせられました
1	0	0	0	0	W a mazingのパネスがとても見やすく、内容も面白かった
0	1	0	0	0	内容はフォーラムへの意見の通りです
1	0	0	0	0	気象データを実際にどう使っているかを知ること
0	1	0	0	0	dynamic pricing
0	1	0	0	0	気象データに付加価値をつけるという各社等のビジネスモデルに沿ったディスカッションが聞けた

2 / 4

●フォーラムのうちブース展示は、あなたの業務の参考になりましたか のアンケート内容と理由

1. とても参考になった	2. 参考になった	3. どちらとも言えない	4. 参考にならなかった	5. 全く参考にならなかった	よろしければ、その理由を以下にご記入ください。
0	0	1	0	0	拝見していないので
1	0	0	0	0	様々な気象情報活用ができることに目からウロコ
1	0	0	0	0	知らなかった企業と話できた
0	0	1	0	0	面白そうなブースは混んでいて良く見る事が出来なかった（時間帯によることもあるかもしれませんが）
0	0	1	0	0	製造業向けの気象サービス事例がなかったため
0	0	1	0	0	よくある技術であったので
0	1	0	0	0	国土地理院の地図が以外に使われていなかった。気象だと全国レベルなので白地図が主に使われていた
1	0	0	0	0	ビジネスに役に立つキーワードが多く得られた
0	1	0	0	0	各社それぞれ得意な分野を気象データとマッチングして提供されていた
0	1	0	0	0	幾つか関心のある取組があったため
0	1	0	0	0	特にハードウェアの展示は刺激になりました
0	1	0	0	0	自分たちの会社にはない物の発想に触れることができた。
1	0	0	0	0	I T各社の新動向を知ることができました
0	0	0	1	0	テーマが不明
0	1	0	0	0	アイデアのヒントになりそう！
0	0	0	0	0	時間の都合で見れなかった
1	0	0	0	0	気象ビジネスの全体像が一目でわかる。各社独自の展示がされていた、

●来場された目的をおきかせください

・新商品や新技術を探すため	・情報収集のため	・製品やサービスの検討のため	・新しい提供先や取引先を探すため	・社員教育のため	・新たな業界への新規参入を検討するため	よろしければその理由をご記入願います。
						表彰があったため 気象のビジネスへの応用を学ぶため
		1			1	会員として内容をもっと知りたかったため
		1		1		W X B Cビジネス会員のため
	1					ビジネスとのコラボの可能性について勉強の為
						気象データの活用は保険ビジネスに高度に利用するべきと考えるため。
						アイデアコンテスト 表彰

● 今後もフォーラムに参加したいと思いませんか のアンケート内容と理由

1.是非参加したい	2.参加したい	3.どちらとも言えない	4.参加するつもりはない	5.全く参加するつもりはない	よろしければ、その理由を以下にご記入ください。
0	1	0	0	0	興味深かったから
1	0	0	0	0	ビジネスパートナーの発掘のため
1	0	0	0	0	ビジネス街のため、ビジネスマンは参加しやすいと思います
1	0	0	0	0	気象と取り巻くビジネスの動きや研究内容を知る良い機会なので
0	1	0	0	0	新しい情報・知りえなかった事が聞けた
1	0	0	0	0	今後のビジネスを立ち上げる前に非常に役に立ちます
1	0	0	0	0	本日とても勉強になった
0	1	0	0	0	知らない目新しい取り組みの例を知ることが出来て良かった
0	1	0	0	0	情報収集や活用事例の収集のため
0	1	0	0	0	長期予測の精度向上へのA I の活用
0	1	0	0	0	アイデアの発想を促してくれるから。
0	0	1	0	0	内容により検討したい
0	1	0	0	0	新分野進出のためアイデア等が得られるため
1	0	0	0	0	毎回刺激を受け、今後どのように発展していくのが楽しみです。

(この項は非会員の方のみご回答ください)

● 本日のフォーラムに参加してみて、気象ビジネス推進コンソーシアム（W X B C）に参加したいと思いませんか のアンケート内容と理由

1.参加したい	2.参加を検討したい	3.興味がある	4.参加する予定はない	よろしければ、その理由を以下にご記入ください。
0	0	0	1	学生なので
1	0	0	0	参加中
0	0	1	0	J I C A の中小企業海外展開支援を利用して、一緒に海外展開できるパートナーを探したい
1	0	0	0	1人で分析しているが、迷う事が多いので本日間いた様に多くの人とのディスカッションで新たな道が見えてくると思う為
0	0	1	0	おもしろい集まりと思いますが、コンソーシアム参加のメリットが伝わるフォーラムになると良いと思います。いまいちメリットが判りません
0	1	0	0	他の会員の方との情報交換ができそうだと感じました。
0	0	1	0	気象データの活用は将来必須と考えているので(防災、保険料率、備金等)
0	0	1	0	私は一従業員なので、企画書を作って上司(かなり偉い人?)に提言できれば、面白いとは思いますが
0	1	0	0	いままで持っていなかった新しい視点をみつけられるから
0	0	0	1	担当外、協力はしています
0	0	1	0	塚越先生がとても興味深かった